

旧磯部家住宅

磯部邸は、江戸時代（1603～1867）の建築様式を反映した伝統的な商家の家（町屋）です。磯部家は、江戸時代に着物を大規模に販売していました。太平洋戦争（1941-1945）の後、彼らはお茶の販売に集中しました。

建物は、アーチ型の屋根（むくり屋根）が立ち上がっているため、この城下町の通り沿いの他の建物とは一線を画しています。家族は、彼らが販売した高級品を反映するような装飾的な屋根を選びました。

敷地は、幅が 6.8 メートルの狭い前部が示すよりも実際には奥に深いです。内部には、倉庫、独立した裏庭、中庭を含む長さ 58 メートルの複合施設があります。「うなぎの寝床」と呼ばれるこの細長いスタイルは、磯部家に 2 つの利点をもたらしました。まず、商取引は通りに最も近い部屋で行われ、家の後ろの部分は居住区に残されます。そして第二に、不動産所有者は通りの正面の幅に基づいて課税されるため、経済的でした。

磯部家は 2004 年から犬山市に属しています。すべての建物は日本の有形文化財として登録されています。